

まぐね投稿の手引き

平成 26 年 1 月 15 日制定

「日本磁気学会会報（まぐね）」に投稿する原稿は、別に定める「日本磁気学会投稿規定」および、この「まぐね投稿の手引」に従って記述する。論説、解説、トピックス等については、この手引きに準じて記述する。新技術・新製品については、「日本磁気学会カメラレディフォーマット（新技術・新製品）」に従って記述し、カメラレディフォーマットで提出する。

※ 注意：カメラレディ原稿の場合、著者より提出された最終原稿がそのまま写真製版用原稿として用いられる。このため著者校正は行わない。したがって、提出原稿の不備に起因する誤植や印刷不鮮明などのトラブルに関する責任を、学会が負うことはできない。最終原稿は著者の責任で充分確認を行った上で提出すること。

1. 掲載記事の種類

掲載記事の種類は、論説、解説、トピックス、新技術・新製品、連載講座、磁気研究よもやま話、情報の広場、会員の声などとする。

2. 原稿の長さ

原稿はいずれも A4 判で刷り上がる。

刷り上がりは 1 行あたり 26 文字の 2 段組みで、行数は 50 行である。ただし、最初の頁にはタイトル、著者名、連絡先等が含まれるので、本文行数は約 40 行である。

論説：

原則として刷り上がり 2 頁以内とする。

文章は約 4000 文字、著者略歴などを含めて約 4500 文字が目安である。

解説

原則として刷り上がり 8 頁以内とする。

本文に図および表、写真とそのキャプション、著者略歴も含めて 20000 文字程度が目安である。

トピックス

原則として刷り上がり 6 頁以内とする。

本文、図および表、写真とそのキャプション、著者略歴も含めて、最大 15000 文字程度が目安である。

新技術・新製品

原則として刷り上がり 1 頁とする。

本文、図および表、写真とそのキャプションを含めて、最大 2000 文字程度が目安である。

連載講座

原則として刷り上がり 8 頁以内とする。

本文に図および表、写真とそのキャプション、著者略歴も含めて 20000 文字程度が目安である。

磁気研究よもやま話

原則として刷り上がり 4 頁以内とする。文字数は 9000 文字が目安である。

情報の広場

会員の声

刷り上がり 1 頁以内とする。最大 2000 文字である。

3. 題名

題名は、原稿の内容を限定的、かつ適切に示すように書く。英語原稿においては、英語の題名だけを書く。和文原稿においては、キーワードに続いて、日本語の題名を書く。いずれの題名とも、むやみに長くならないようにする。

4. 著者名と所属機関名

英文原稿では英文の題名に続いて、英文の著者名、所属機関名称を記載する。和文原稿では、日本語の題名に続いて日本語で著者名を書く。さらに次の行に所属機関の名称を日本語で書く。日本語、英語のいずれにおいても、複数の所属機関の著者が連名の場合には、半角肩付きの‘*’, ‘**’を著者名の後に付け、対応する所属機関名の前に‘*’, ‘**’を付ける。

5. 英文要旨

論説、新技術・新製品以外の原稿には、英文要旨を必要とする。英文要旨は、200語以内で記述する。段落はつけない。英文要旨は、英文の所属機関名称および所在地の次に書く。

6. キーワード

論説、新技術・新製品以外の原稿では、以下に従ってキーワードを記述する。

- 6.1 英文要旨の次の行に、“Key words:”と書き、その後に“,”で区切って記述する。
- 6.2 論文の内容を的確に表現する語句を本文中より 5～10 語選定し、英語で記述する。
- 6.3 キーワードとして、より具体性のある語句を選ぶ。たとえば、anisotropy よりも perpendicular magnetic anisotropy とする。
- 6.4 特に意味のある場合や省略語を除き、すべて小文字を使用する。
- 6.5 できる限り名詞と形容詞だけを用いて表現する。冠詞、前置詞、接続詞などは使わない。たとえば、the magnetic recording and the recording medium ではなく、magnetic recording と recording medium の2つのキーワードにする。
- 6.6 複合語や省略語は慣用されているものに限る。
- 6.7 物質名はなるべく化学式で具体的に表現する。magnetite ではなく Fe_3O_4 と記述する。Fe-Al alloy ではなく $\text{Fe}_{1-x}\text{Al}_x$ ($x = 0 - 0.5$) と記述する。

7. 本文

本文は、以下に記載の点に注意して記述する。

- 7.1 常用漢字、新仮名づかいを用い、人名および日本語になりきっていない術語などは原語を用いるが、必要以上に外国語を用いないこと。また、謝辞以外には称号を用いない。
- 7.2 日本語原稿では、英数字は半角文字を用いる。句読点・括弧は全角文字を用いる。本文中の脚注記号・文献番号は全角上付き文字を用いる。
- 7.3 句読点について、日本語の部分では全角の「。」と「,」を用いる。
- 7.4 本文中の変数および数式はイタリック体（斜体）を用いる。また、式の中では、できるだけスペースを入れて読みやすいようにする。たとえば、「 M_s 」, 「 K_u 」, 「 $E = E_0 \log(kT/2d)$ (1)」とする。
- 7.5 本文中の注は脚注として、肩つき“*1”, “*2”等で表す。注はそのページの下に本文と区別して書く。
- 7.6 新技術紹介を除いて、原稿中に製品名や製品番号を使わない。
- 7.7 複合語、省略語および物質名については、本文においてもキーワードの 5.6 および 5.7 に従って記述する。
- 7.8 国際単位系(SI)を使うことを推奨する。ただし、磁気関係の SI 単位への移行がほとんど進んでいないので、cgs 単位系等他の単位系の使用は認める。単位系について不明な点がある場合には、日本磁気学会のホームページに掲載されている「推奨単位」を参照する。
- 7.9 単位はイタリック体（斜体）にはしない。数値と単位との間は、「15 cm」, 「200 V」

と半角のスペースを挿入する.

8. 付録と謝辞

付録が必要な場合には、本文の次に記載する. 謝辞は、References の前に記載する.

9. 参考文献

参考文献は、本文中では肩つき "1)", "3)~5)" の形をとる. 本文の最後に、「References」のタイトルを章と同様に太字で書き、以下の例に従い、英文あるいは和文でできる限り詳しく引用する.

英文で記述する場合：著者全員の頭文字. 姓を記載し、雑誌名は斜体として、巻の番号は太字にする. コロン、カンマなどにも注意する. この投稿の手引きの英訳である、「A Guideline for Preparation of Manuscripts for Submission to the Magnetism Society of Japan」の次の頁にある「Journal Title Abbreviations」に省略名が記載されている場合には、その省略名を用いる.

和文で記述する場合：全著者姓名をフルネームで記載し、雑誌は正式名称として、巻の番号は太字にする.

9.1 雑誌の引用

著者名：雑誌略名，巻，頁（出版年）.

E. S. Murdock, R. F. Simmons, and R. Davidson: *IEEE Trans. Magn.*, **28**, 3078 (1992).

F. Yamashita and Y. Yamagata: *J. Magn. Soc. Jpn.*, **23**, 1117 (1999).

藤森啓安，高梨弘毅，三谷誠司：日本応用磁気学会誌 19, 4, (1995).

9.2 単行本の引用

著者名：書名，編集者，頁（出版社，出版地，発行年）.

S. Chikazumi: *Physics of Ferromagnetism*, **Vol.1**, p. 113 (Syokabo, Tokyo, 1978).

K. Ohta: *Jikikogaku no Kiso 1* (in Japanese), p. 198 (Kyoritsu Shuppan, Tokyo, 1973).

近角聡信：「強磁性体の物理（上）」p.113（裳華房，東京，1978）

9.3 プロシーディングス，ダイジェスト，概要集などの引用

著者名：プロシーディングス名，会議名，編集者，開催地，開催年，頁（出版社，出版地，出版年）.

A. Fukumoto and S. Yoshimura: *Proc. SPIE 1663, Optical Data Storage*, ed. by D. B. Carlin and D. B. Kay, San Jose, 1992, p. 216 (The Society of Photo-Optical Instrumentation Engineers, Washington, 1992).

ただし、プロシーディングス名と会議名が一致するときは、会議名を書かなくてもよい.

9.4 雑誌のサプリメントとして発行されている場合は雑誌名も記入する.

R. J. Gambino: *Proc. Magneto-Optical Recording Int. Symp.*, Tokyo, 1991, *J. Magn. Soc. Jpn.*, **15** (Suppl. No. S1), 1 (1991).

9.5 プロシーディングスが発行される前に限り，ダイジェスト，概要集を引用できる.

S. Uchiyama: *Dig. Magneto-Optical Recording Int. Symp.*, Tucson, 1992, p. 1 (The Magnetism Society of Japan and The IEEE Magnetism Society, 1992).

M. Onishi, A. Kida, L. Lee and M. Matsui: *Dig. 24th Annual Conf.*, Tokyo 2000, p.328 (The Magn. Soc. Jpn 2000).

9.6 私信（e-mail など）

S. Oshima (private communication, April, 2001).

9.7 web ページを引用する場合は URL および参照した日を明記する. URL には、オリジナルのファイル名まで正確に表記する.

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj2/index.html> (As of April 15, 2005).

9.8 特許の引用

特許を引用する場合は、特許権者または出願者名、公開番号、公告番号、登録番号等、公開されたものを引用する。

S. Oshima: Kokai Tokkyo Koho JP 2005-88888(2005).

T. Yamada: US Patent A.P. US 2005-9999999 (2005).

10. 原稿受理日と採録日

原稿が編集委員によって受理された日を原稿受理日とする。

11. 図、表、写真など

- 11.1 図と写真は通し番号とし、Fig. 1, Fig. 2 のように表し、表は Table 1, Table 2 のように表わす。
- 11.2 図、表、写真の標題、説明、図中の文字などは日本語あるいは英語で表記する。省略語（たとえば LCD）や慣用句（たとえば van Alphen）を除いて、冒頭の文字のみ大文字とする。
表の標題と説明は表の上に、図と写真の標題と説明は、図の下に記述する。
図、表、写真中の文字の大きさは、高さが 1.5 mm 以上になるようにする。
- 11.3 郵送による投稿の場合、図、表、写真は、原稿等といっしょにプリンターで印刷しても、別に作成して貼り付けても良い。原稿にメモをつけ、仕上りの大きさを指定する。
- 11.4 図、写真、表をカラーで印刷する必要がある場合には、その費用を著者が負担する。

12. 原稿の体裁

原稿は任意のファイル形式とし、カメラレディフォーマットにする必要はない。文章は Word, TEX あるいは pdf 形式を推奨する。図、表、写真は可能な限り精細なものとし、形式に応じてファイルを分けてもかまわない。

新技術・新製品原稿の場合には、「日本磁気学会カメラレディフォーマット（新技術・新製品）」の体裁を参照し、その文面に書かれている指示どおりに原稿を作成する。

13. 原稿の提出

原稿は編集委員の指示に従って提出する。原則として電子ファイル化したものを電子メールで送付することとするが、特に希望する場合は郵送による送付も認める。

郵送による投稿の場合は、オリジナル原稿 1 部、原稿のコピー 1 部、英文添削用原稿 1 部を送付する。

英文添削用原稿には、論文の第 1 ページに記載されている論文題目、著者名、所属機関、所属機関住所、アブストラクト、キーワードを 12 point 以上のフォントを使い、ダブルスペースで書き直した原稿と、図表と写真を用意する。図表、写真は Caption が 12 point 以上となるよう全体を拡大し、1 ページに 1,2 枚を目安として添付する。ただし、英文原稿で全文のリライトを希望する場合には、採録決定後に 12 point 以上のフォントを使いダブルスペースで書き直した全文を 1 部提出する。

以上